

ライフケアガーデン湘南 2F

症 例 概 要 利用者：70代 女性 要介護5

利用期間：2022年6月中旬～現在

主疾患：頭部外傷後遺症、器質性精神障害、びまん性脳損傷、肋骨骨折

日常生活でユマニチュードや趣味活動をしていく中で、オムツからトイレ利用が始まり排泄に関するQOL向上に繋がった事例

内 容

2018年7月、歩行中にバイクとの接触事故に遭い、意識不明状態でF病院に搬送された。意識障害、びまん性脳損傷で保存的に加療。気管切開施行。意識不明の状態が続いたが一カ月半後の9月に意識が戻り湘南慶育病院へ転院。気管カニューレ抜去。精神薬の内服開始。2019年2月胃瘻造設施行。

2019年8月にCセンターへ転院。退院期限となり施設を検討され、2022年6月当ホームに入居。入居初日に車椅子からずり落ちそうになる。翌日ベッドからずり落ちが2回あった。その後も車椅子やベッド上での動きで危険な状態が続いていた。

デイルームでは「ねー。ねー。」と大きな声を出してスタッフを呼び、対応しても呼び続けてしまう事が続いていた。

ユマニチュードを実施、ワンチームでご本人のやりたい事や不穏緩和を目標としお声掛けや話す・触れるを意識し実践をした。

塗り絵や編み物をするのがお好きなことが分かり、取り組めるようにセッティングをした。

取り組んでいる中は拒否や嫌がるご様子は無く、穏やかな笑顔を見ることができた。

フラワーアレンジメント作成時には「綺麗ね」と喜ばれ、七夕の撮影では素敵な笑顔を見せて下さった。

ご家族からは「こんな笑顔初めて見ました」と喜んで頂けた。

排泄は立位が不安定である事、尿意便意が不確実である事からオムツを使用。7月「トイレに行きたい」とスタッフを呼ぶ事が多くなる。お試して、二人介助にてトイレ利用。その際に排便があった事から、

排便の際はトイレを利用することとなる。回数を重ねる事に立位が安定し、一人介助で行えるようになる。

次第にオムツ交換の声掛けに対して「今は出てない」や、ナースコールで排尿が出たと教えて下さる事も増えてきた。現在は「お願い」と声をかけて下さり、トイレ誘導をしている。日により失敗されることもあるが、トイレでの排尿も増え、「ありがとう」と喜びの声が増えてきている。

今後はオムツからリハビリパンツに変更し、排泄に関するQOL向上や笑顔や喜びが増えていく事を目指していきます。